2022.8
No.38
8月号
［Take Free］

ほっとおたより NEWS

「ほっとおたよりNEWS」は、
東日本大震災により
岡山県へ避難されている方にむけて
無料配布しています

編集・発行：一般社団法人ほっと岡山
岡山市北区東古松1-14-24 コーポ錦1階
電話：070-5670-5676
メール：office.hotokayama@gmail.com

ほっと岡山
岡山からできる東日本大震災の被災者の支援

今月のInstagram
インスタから
ほっともも太くん

ホームページの「みなさんからの声」では、利用者の声がお読みいただけます。

全国の避難者数
［令和4年4月28日復興庁調べ］
約35,110人
—
岡山県の避難者数 910人
（うち、福島県からの避難者183人）

［特集］
原発事故の現在地
当事者同士でしか話せないことを、
同年代と話したい——

［今月の内容］
イベントカレンダー
紙面から失礼します〜
ユースプロジェクト
スタッフより
ホームページ・SNS・
noteのお知らせ

あっという間に梅雨が終わり、
ことさらに暑い夏ですね。
無理をしないで、体を楽に、
ほっと一息つける時間を
取ってくださいね。
特集に避難者インタビューが
加わりました。
ご意見ご感想はいつでも
「つぶやきネタカード」でお寄せください。

イラスト：タカハシカオリ

特集 原発事故の現在地

当事者同士でしか話せないことを、同年代と話したい——

交流会でギターを披露する塩田翔吾さん(25)は、
原発事故当時、福島県須賀川市の中学2年生でした。
原発事故から1年後、高校入学を機に、
福岡県に家族で避難。
この11年を振り返りながら話していただきました。

愛用のギターと共に

「死んじゃうのかな」と怖かった

その日(2011年3月11日) は、午前中が3年生の卒業式でした。2年生だった私は午後に部活動をしていました。バドミントン部だったので、体育館だったのですが、窓がガタガタと鳴り、天井にぶら下がる照明も揺れて、危ないということで外に出ました。外に出ても、立っていることができないほどの揺れだったんです。

自宅に帰る途中の道路も、デコボコ。瓦も落ちて、大変なことが起きた、という雰囲気でした。ファッションセンター「しまむら」の窓ガラスも割れてしまい、無防備な状態の店を守るように従業員が見回りをしていました。

12日の1号機の爆発はラジオで知りました。あの頃は、私は原発のことなど分からなかったんですが、原爆についてちょうど習っていて、放射能の怖さは知っていたので、すごくショックを受けました。「死んじゃうのかな」と怖かったのを覚えています。

当時は、両親と3歳下の弟と4人で暮らしていて、家の横のアパートの1階で飲食店を経営していました。その飲食店の座敷でしばらく過ごしていました。

その後の学校生活も原発事故の影響を受けていました。体育の屋外授業はダメ、登下校以外の外出は控える、バドミントン部も基礎練だけになり、大会も全て中止になってしまいました。

原発事故後の学び

原発事故後の1年間は、学びが多かったとも思っています。例えば、校庭の利用は3.8μSv/h以下という文科省のきまりや、屋外活動の時間制限があったにも関わらず、今のコロナのように、「慣れ」が出てきてしまうんですね。目に見えるものでもないし、すぐに健康被害が出るわけでもないので、みな、マスクも1ヶ月くらいで外してしまっていました。先生も外してしまうんです。ある意味、目に見える分断のようなものが表に出てしまう。私は最後までマスクをしていたのですが、「過剰だぞ」と変人扱いされました。内部被ばくを恐れているといった理由を説明しても、「誰も病気になってないじゃん」「テレビは大丈夫って言ってるじゃん」と言われてしまう。今思うと、当時、私の思いを受け止めてくれる人はいなかった。

そんな生活が1–2ヶ月経った頃に、「移住しようか」という話が家族で話し合われました。私もあと1年で卒業、弟も小学校の卒業のタイミングでした。

1年後の福岡県への避難

実は、私は福島県の高校の合格が決まっていたのですが、その高校を辞退する必要がありました。そして、福岡県の高校を受けなくてはならなかったのですが、その受験日が、どうしても、中学校の卒業式の日だった。だから、須賀川の中学校の卒業式を、欠席したんです。

私はギリギリまで、避難をする、移住をするとは言えませんでした。言えば、いじめられるというのもありました。クラス中からブーイングがくるだろうとも思いました。卒業式が出られないということを分かっていながら、卒業式の練習に出続けるのは、少しつらかった。結局、避難をしたのは、学年で私一人だけでした。

一人だけ逃げるんだ、という弱者扱いもあったのだと思います。避難をすると知っても、何の言葉をかけてもらうこともなく、連絡先の交換もありませんでした。だから、この頃は、「福島から足を洗おう」というような気持ちでした。

福岡での高校生活は、知人が一人もいない状況だったので、とても不安でした。でも、変化もありました。中学校の頃は、内気でコミュニケーションが苦手なタイプだったんですが、高校に入ってからは、無理やり積極的に人と係るようになりました。それもあって、少し馴染めたようにも思います。環境に少しずつ慣れながら、手探りで生きていくような感じでした。

両親は、須賀川の店を畳んで、福岡で新しく飲食店を始めました。さまざまな手続きを同時にやらなくてはならなかったでしょうし、大変だったと思います。最初は、家族4人で暮らしていたのですが、私が大学生の時に両親が離婚してからは、父子家庭の状態でした。母親は仙台の身内のところに引っ越して、住んでいます。

大人になったいま、思うこと

12年目をもって思うのは、今に始まったことではないですが、原発事故に対して、周りの関心が薄いな、ということです。政府も、区切りをつけたがっているように思います。被ばくの危険性なんて、2の次、3の次に思っているのだろうという感覚はありますし、当事者の意見をほとんど聞かず、危機感もないのだと感じています。

我が家は、避難ではあったけれど、すぐに家を探して、移住のような形になったこともあり、住宅支援を受けていません。そういった支援があることも知りませんでした。本来であれば、行政の側から「こういう支援があるので、どうでしょう」と教えてくれたらよかったのではないかと思います。結局、知らない人が損をして、支援の期限が過ぎたらそれっきり。情報を知ったもの勝ちなのは、おかしいなと思います。

大学生時代にアルバイトをしていた頃お父様と一緒に

交流会でも披露することのあるギター

大学4年間、私は家業を手伝いました。人生ではじめての仕事でした。その経験は、今にも役立っていると思います。いま、スーパーの精肉店で働いています。お盆やお正月は忙しい、みんなが休みの日に仕事になってしまう……といった大変さはありますが、技術は身に付くのでやりがいがあります。

仕事の休みの日には、美味しいものを食べるのが楽しみなんですが、福岡に来てから、魚の美味しさなど、食文化に圧倒されました。改めて思い直してみると、安全で美味しいものについて考えるようになったのも、原発事故の影響があったのかもしれません。

原発事故後の1年間は、両親が私と次男の給食を止めて、毎日弁当を作ってくれていました。それは、いじめの要因にもなっていましたが、作ってくれたことはありがたいことだったなと思っています。

同じ経験をした若い人たちと出会いたい

やはり、あの時に、被ばくをした、という事

原発事故の現在地

当事者同士でしか話せないことを、
同年代と話したい

特集

実には変わりがないと思っています。ビクビクして暮らしているわけではないけれど、どこかで「仕方ない」というような覚悟をしている。そんな覚悟をしたところで、分かってくれる人もいません。原発事故には、本当に、精神的にも身体的にも傷つけられたなと思います。

よく、福島に帰りたいですか、と聞かれます。そういう時は、「帰れるような場所になってくれるなら、帰ります」と答えています。「人が住んでいるから大丈夫」というのではなく、本当に、放射能汚染がなくなり、事故前のように大丈夫なんだ、と思えるまでは、帰れないと思うんです。

メディアは、「不幸なものには蓋をしてしまえ」というような理屈で報じているのではないかと思うことがあります。でも、メディアが、放射能汚染の事実や、被害を受けた人の苦労を追求してくれなくて、誰が言ってくれるのですか、と思うんです。あらゆるところに「忖度」が見え隠れしているようにも思います。

ほっと岡山の交流会では、ギターを披露しています。もともと、エレキギターをやりたかったんですが、4年前から、アコースティックギターを独学で習得して、弾き語りができるようになりました。ある程度の曲は弾けるのですが、先日は、「およげたいやきくん」を披露しました。ちょっと同年代には分からない曲ですが。笑

やっぱり、同年代と話をしたいと思います。それが、実現できていないんですね。原発事故当時、小・中学生だった人たち――いま20代の人たちと、繋がりを作りたいなと思います。当事者同士でしか、語れないこともたくさんあると思うんです。

だから、ぜひ、若い人も、ほっと岡山のオンライン交流会に参加してくれたらいいなと思っています。

インタビュアー
吉田千亜（よしだ ちあ）
1977年生まれ。フリーライター。埼玉に避難をした人への『福玉便り』、子どもの未来と健康を考える『こどけん通信』などの編集・執筆。
著書：『ルポ母子避難（岩波新書）』、『その後の福島：原発事故後を生きる人々（人文書院）』、『孤塁 双葉郡消防士たちの3・11（岩波書店）』

参加者募集!!

毎月第2土曜夜は、オンライン交流会

全国各地の避難者の方を対象に、年齢もさまざまな方々で毎月交流しています。週末の夜のひとときを、ご一緒にお話しませんか。

ここ最近は、こじんまりと集まっています。ギターを奏でたり、気になるニュースの話で盛り上がったりしています。

ときにはゲストが入ることもありますが、基本的には、みなさんと話してみたいこと、聞いてほしいことなどを中心にお話を聞きあっています。

岡山県に避難されている方以外も、全国どこからでもご参加いただけます。参加しようか迷っている方もどうぞお気軽にお申込みください。

日時 毎月第2土曜日　19:30〜21:00
定員 10名
お申込み メール、お電話、フォームいずれでも
◎Zoom使用します。
◎事前申込制
◎wifi機器の貸出あり。

フォームはこちら!

＊避難・移住者を対象とした集いの場になります。支援者・一般の参加希望の方は事前にご相談ください。

オンライン交流会

6・17最高裁判決
「全く被害に向き合っていない」――国の責任を認めない判断

福島第一原子力発電所事故後、事故の被害者らが損害賠償を求め、全国で約30の民事裁判が提起されました。そのうちの4訴訟について、国の責任に対する初の統一判断が6月17日に示されました。

高裁では、4つのうち3つが「国の責任」を認め、1件が認めないという判断でした。しかし、最高裁では「国の責任はない」と判断。判決直後、最高裁前での第一声では、「全く被害に向き合っていない」と、原告側弁護士は怒りを表明しました。

最高裁の判断は、国が、東京電力に津波対策をとるように命じていたとしても、浸水を避けることはできなかった蓋然性(*)が高いことから、責任を認めることはできない、という内容でした。

しかし、原告らが強く訴えていたのは、事故前に、国が持つ規制権限が適切に行使されていたのか、という点でした。その部分について最高裁判決では、何ら検証せず、防潮堤を作っていても（仮定）、回避できないだろう（仮定）、だから責任はない、という2つの仮定を重ねた、言い逃れのような判決でもありました。

一方、この判決には、裁判官の一人、三浦守裁判官が反対意見を書いています。そこには、「予防原則」の立場にたち、ひとたび事故が起きた際の被害の大きさに触れて、津波のリスクは「保守的に考慮すべきだ」と言及し、原告らが主張した設備の浸水対策で事故は防げた、と主張しました。反対意見こそ、原告らが望んでいたものでした。

判決後、原告の40代の男性は「司法は残酷だ」とつぶやき、また、応援に駆けつけた避難中の女性は「怒りと悲しさでいっぱい」「でも、その理不尽さを抱えるのは自分だけじゃないとも思った」と話していました。

この最高裁判決後、萩生田光一経済産業相は、「安全第一で、地元の理解をいただいたものは再稼働を進めていきたい」と話しています。

判決翌日、福島県内でも、さまざまな方が、納得のいかない思いを語ってくれました。

三春町の60代の男性は「他の原発も、原発以外のものでも、国が関わる事業で何か事故を起こしても、責任はとらないということになる。今後への影響が大きいのではないかと心配している」と語りました。また、大熊町から会津若松市に避難している40代女性は「うちら、避難している人を見捨てたのと一緒でしょう。バカにしていると思う」と憤りを隠しませんでした。また、郡山市の50代の男性は「負けるとは思っていなかった。勝訴したあとの国の対応に期待があった。これまでの、裁判で国の責任を認めてきた、積み重ねは何だったのか」と語気を強めていました。

生業訴訟の弁護団事務局長、馬奈木厳太郎弁護士は、「判決によって、ボールは私たち社会に投げ返されました。原発事故の被害は防げない、国に責任はない、それでいいのか?と問われている。命と健康が第一義であるということを、『社会通念』にしなくてはならない」と訴えています。

今後も、各地での原発事故をめぐる裁判は続いています。被害を受けた方々の切なる思いが届くよう、心から応援したいと思っています。

–
(*) 真であるか否かの、確実性の度合

4訴訟原告団の共同声明のページ

原発賠償ひょうご訴訟弁護団のPDF

イベントカレンダー［2022年8月］

火・木・金・第2土…相談日
●…ほっと岡山主催・共催等
●…協力イベント、他

相談員…●大和田（精神保健福祉士）　●はっとり
●司法書士（随時）

＊司法書士による法律相談は随時受け付けます。ほっと岡山事務局まで、お気軽にご連絡ください。

HPはこちら！

リニューアルされたホームページでは、1ヶ月先までの予定が見られますので、ぜひこちらもチェックしてみてください。皆さまのお越しをお待ちしております。ご質問も遠慮なくどうぞ！

日	月	火	水	木	金	土
31	1	2 ●相談員：はっとり	3	4 ●相談員：はっとり	5 ●被災者健診 岡山協立病院	6
7	8	9 ●相談員：はっとり	10	11	12 事務局お休み ●被災者健診 岡山協立病院	13 ●オンライン交流会 ●被災者健診 水島協同病院
14	15	16 ●相談員：大和田	17	18 ●相談員：はっとり	19 ●相談員：はっとり	20 ●「大丈夫？災害時のトイレ問題！」高松公民館・さんかく岡山主催
21	22	23 ●相談員：はっとり	24	25 ●相談員：はっとり	26 ●相談員：はっとり ●被災者健診 岡山協立病院	27
28	29	30 ●相談員：はっとり	31	9.1	2	3

●子どもの居場所「ひみつきち」
8月以降は定期開催がお休みとなります。ハロウィンやクリスマスは、例年どおりパーティーを予定しています。お楽しみに！

●大谷先生のアロマテラピー&リラクゼーション
担当者の都合により、8月をお休みします。

●避難者オンライン交流会（Zoom使用）8/13（土）19:30〜21:00／申込要（締切前日16:00）。機器の無料貸出あり。
避難者、被災者の方なら全国どこからでもご参加ください。

●大丈夫？災害時のトイレ問題！などなど知って安心 岡山市の取り組み 8/20（土）13:30〜15:30／申込要
会場：岡山市立高松公民館

●ミニ交流会くるくるお茶会
残念ながら7月いっぱいで終了となりました。たくさんの方々にご利用いただき、ありがとうございました！また代わりの癒やし企画を検討中です。

新型コロナウイルスに関するイベント開催についてお知らせ
新型コロナウイルス感染拡大による政府・行政の判断により、イベントをオンライン開催へ変更する場合がございます。変更の場合、既にご予約の方には、ほっと岡山事務局よりご連絡します。参加をご検討の方は、事務局へお問合せいただくかホームページでご確認ください。ご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。

申込み先　ほっと岡山　0120-566-311　Fax：086-230-4561　E-mail：hotokayama@gmail.com

紙面から失礼します〜

読者からカードが届きました！

「お給料が上がらないのに（それどころかコロナでボーナスも大幅カット!!）これ以上どう節約しろというのか!?」と半ば怒りながら自転車通勤していたら（ガソリン高くて車乗れない!!（泣））、横から出てきた車に跳ねられ、救急車に。

子どもも家を出て現在岡山で一人暮らしの身には何ともこたえる事件でした。

仲の良い友達も出来たけど、さすがにプライベートなことまであれこれ気兼ねなく頼めるかというと…。結局、骨折も大きなケガもなく自宅療養で済んで事なきを得ましたが、うーん…。

「もう子育て終わったんだから避難元に帰れば？」等々親戚にも言われたり、実家は親の介護があるけど、もう環境が色々変わりすぎてたり、自分も具合悪くなるのが心配だったり、で帰るに帰れず。

何より子どもの第2の故郷である岡山に縁もゆかりもなくなってしまうし…と悩みは尽きません。何年たってもこうやって暮らしていくのかな？

人生折返し地点をすぎて自分はどうしたいんだろう？と自問自答の日々です。（匿名）

『大変なことでしたね。どうかお大事にされてください。子育て後。改めて自分の人生が問われますよね。』

同封の「つぶやきネタカード」でのつぶやき・投稿・ネタ情報をいつでも募集中！

ユースプロジェクト2022 今年も開催します！！

昨年はコロナの影響で、開催自体が危ぶまれましたが、子どもたちの楽しみが次々奪われる中、何とか開催したいと宿泊予定を日帰りにし、前日にPCR検査を行うなど対策を講じて実施しました。

「楽しかったけど、泊まりたかった」と口々に言う子どもたちのため、今年は昨年参加してくれた子どもたちを含めた実行委員会を立ち上げ、子どもたちの「やりたい」を実現できるように考えています。

今年の開催は、

日程 10月29日（土）〜10月30日（日）　**場所**「大芦高原温泉雲海」

定員 15名　**参加費** 1人7,000円（兄弟割引あり）

を予定しています。

募集の詳細は9月号でお知らせしますので、お見逃しなく。

スタッフより

●ここ3年ブラックベリーの収穫をしていない。収穫しても生食には向いていなくて、ジャムかジュースに加工するために、冷凍でためておいて加工するのだけど、種が大きく、種取りの作業が意外と手間なのと、梅雨の雨の合間の収穫、収穫はやめても畑にはブラックベリーが植わっているので、草刈りだけはやらないわけにはいかない。何年も草刈りだけではそろそろ笹ががはびこって、大変なことに。少しずつ耕そうか。

ここのところ何も気にせず、旅行に行きたいなと思うことがよくある。震災前は思い立ったら車に荷物を積んで、車中泊の旅行によく出かけていて。また同じように、いろんなことを気にせず、思い立って目的もなく、どこかに行こうと思うけど。二人とも障害があって動けるうちに体力があるうちにもう少し自分で車を走らせてどこかに行きたい。7月末で退職します。（宮岡義人）

●今年は梅雨明けが早く、雨が少ないのかと思っていたら局地的に大雨になるところがあったり、猛暑だったりとあれこれ心配になってしまいますね。さて、全国的には7月7日が七夕ですが、岡山は旧暦なので、七夕は8月です。今は岡山でも7月のイベントになっていますが…。短冊にたくさん願い事を書いてしまいました。どれか1つでも叶いますように。（杉本美緒）

●値上げです。いろいろ値上げされて、大変なんですが。うちのシルバーアクセサリー教室も材料やさんが値上げなので、値上げします。まず、いくら値上するか計算、義人さんとも相談の上、新価格決定。契約してる数社の予約サイトの価格変更作業。価格変更なんて、たまにしかしないから、マニュアルからチェック。そして、ホームページで告知。値上げするのも大変ですね。

くるくるお茶会の担当として相談員をしてまいりましたが、この度ほっと岡山を退職することになりました。お会いする機会は減ると思いますが、またお会いしたときはよろしくおねがいします。（宮岡篤子）

●コロナの間は穴の中の狸？のように、人ともあまり係わらず趣味に没頭していましたが、最近また新しい出会いが楽しめるようになってきました。うまく行かないことも多いけど、人生のいち瞬間でもともに過ごしてくれる人に感謝しなければ。（小林）

●朝、窓を開けると心地良い風が流れてくる。いいなと感じるとそれは長くは続かない。人工香料の香りが何処からともなく入ってくる。この不快さがたまらなくて、急いで窓を閉める毎日だ。どこかで洗濯物を干すとこの匂いが漂ってくる。強烈でいつまでも薄れない。私は化学物質過敏症ではないが、その病気にかかっている人は命を脅かされることになる。この甘ったるい匂いの人工香料を使っているケーキ屋さんに並ぶ人の気持ちがわからない。香害ともいわれているが、あらゆるものに使われているこの香料に苦しむ人がいることを知ってほしい。（大和田）

●夏はお風呂をシャワーで済ます場合が多いかもしれませんが、夏だからこそお風呂に少しでも浸かることをお勧めします。お湯の水圧は身体のリラクゼーションにも。また、ミントの葉をお風呂に入れると湯上りサッパリします。夏向けの香りのアロマバスボールをお風呂にいれるのもいいですね。夏は水分補給をしながら湯ぶねにつかることで冬にむけての身体作り（冬の冷え予防）にも一役買います。（大谷）

●相談員の宮岡義人さん、篤子さんがこの7月でお仕事が終了となりました。本当に長い時間、伴走して支援を継続してくださり、いち当事者として心から感謝しています。ありがとうございました。

ほっと岡山のことをあらためて考えます。この数年、私たちは避難者お一人おひとりと、点と点を結ぶようなつながりだったんだなあと振り返ります。以前のように交流会に何十人も集まることもなくなりましたが、それは自然な流れだと感じています。一方で、相談や近況報告などの連絡、相談は、毎月30〜50件くらい、ほっと岡山がスタートした時から変わらずずっと継続的にあります。

語りにくさがつきまとうこと、日々の困ったこと、不安なこと、避難の経験のこと、原発事故のことを、安心して話せる場所に、お二人はずっと関わってくれました。岡山弁も土地柄のことも、野菜の作り方も、わからないことだらけの土地のことを代弁したりアドバイスしたり、どれだけ助けてもらったか。

ほっと岡山のこれからのことを考えます。ちょっと何か困った時や、ふと立ち寄れる場所、そして同じような経験の人たちと「最近どう？」と話せるつながり、そういったことが、お一人おひとりの日々の支えになったり、時にはケアになったりすること。義人さん、篤子さんの「うんうん。」と耳を傾けてくれる様子を時折思い出しながら、ほっと岡山が、これからも「いる・ある」こと、そんなことを考えています。（はっとり）

ホームページやSNS、noteで最新情報をチェックしてみませんか?

これまで紙面でお伝えしてきたニュースやイベントは、
いち早く、かつ2ヶ月分を先駆けてお届けできるように、ホームページとSNSをメインに掲載しています。
「特集」や「ほっと岡山レポート」、「こころのオアシス」は、noteにアーカイブを載せて、
いつでもどこでもお読みいただけるようになりました。

＊noteはクリエイターが文章やマンガ、写真、音声を投稿することができ、
ユーザーはそのコンテンツを楽しんで応援できるメディアプラットフォームです。

1 早く先まで分かる予定

❶「NEWS&イベント」で主催イベント、その他のイベントが常にアップデートされています。
❷「イベントカレンダー」では2ヶ月分の予定を確認できます。

2 困ったときに頼れるリンク集

お役立ちリンクからは、「放射能リスク」「こころ」「コロナ」「帰還」「子育て」「移住」「原発事故」「健康診断」「お金」「住宅」「仕事」「保養」「調査研究」などのトピックで情報を調べることができます。

3 どこでもいつでも読める「ほっと岡山マガジン」

「特集」、「ほっと岡山レポート」、「こころのオアシス」、など、これまで紙面でご紹介していた記事がnoteで読めるようになりました。ホームページのリンクからもどうぞ。

Design: Okano Yuichiro (hi foo farm)

ホームページやフェイスブック、YouTubeでも『ほっと岡山』の活動などをご覧いただけます。

「ほっと岡山」ホームページ
フェイスブック「hotokayama」
YouTube「ほっとチャンネル」
インスタグラム「hotokayama」

発行:2022年7月31日
発行元:一般社団法人ほっと岡山
〒700-0921 岡山県岡山市北区東古松1-14-24 コーポ錦1F
TEL:070-5670-5676
FAX:086-230-4561

©2022 ほっと岡山 All Rights Reserved
禁・無断複写、転載

ほっと岡山
岡山からできる東日本大震災の被災者の支援